

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：トルコ文化研究センター

資格：教授

氏名：杉浦 修史

研究分野	研究内容のキーワード
建築設備	省エネルギー、住宅、建築設備、設備設計
学位	最終学歴
工学修士	京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 一級建築士	1975年取得	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. Sustainable Society:Energy Saving Konstruktion	単	2012年6月14日	iaSU 2012	業務用ビルのエネルギー消費量の動向を知る目的で、梅田センタービルの竣工後25年間の消費エネルギー量とあわせ、ビル設備の更新や館内人口等の変化を調査、分析をしたものである。
2 学位論文				
3 学術論文				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 住宅における電灯・コンセント負荷の分析と将来予測	共	2013年8月	日本建築学会大会	伸び続けてきた家庭用消費エネルギーの動向を知るため、公表されている各所の既存データを活用し、2020年の消費量の予測を試みたものである。
3. 総説				
1. 家庭におけるエネルギーの効率的利用に関する調査研究—平成26年度	単	2015年2月25日		家庭の省エネルギーに関する調査研究：住宅の断熱改修や家電機器の更新等の省エネルギー効果について効果について、住居の温湿度および電力消費量の通年にわたる実測による検証と分析
2. 家庭におけるエネルギーの効率的利用に関する調査研究—平成25年度	単	2014年2月25日		築25年の戸建て住宅の、更新した家電機器（テレビ、冷蔵庫）の消費電力量を、更新前後に実測し、更新による省エネルギー効果を検証した。また、同時に温熱環境を実測、シミュレーションにより外皮の性能向上による省エネルギー効果検討を行った。さらに、19軒の実測・アンケート調査を行い、省エネ行動に対する阻害要因を検討した。
3. 家庭におけるエネルギーの効率的利用に関する調査研究—平成24年度	単	2013年2月25日		増加し続けてきた家庭用エネルギー消費量について、2020年の消費量を既存のデータをもとに予測した。また、家庭のエネルギー消費の考え方を整理し、6軒の家電機器を対象にそのエネルギー消費量の実測を試行した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2014年5月から2014年8月	門真市市民文化会館舞台設備等大規模改修計画策定業務委託先の選定 委員
2. 2013年8月1日から2015年7月31日	西宮市新エネルギー・省エネルギー推進計画策定委員会 副会長
3. 2013年4月から、現在	建築エネルギー懇話会 顧問
4. 2012年7月から、現在	京都駅ビル設備改修設計プロジェクト検討委員会 副委員長
5. 2010年4月から、現在	空気調和衛生工学会近畿支部 能力開発委員会 委員
6. 1995年から、現在	ダイキン空調懇話会 委員